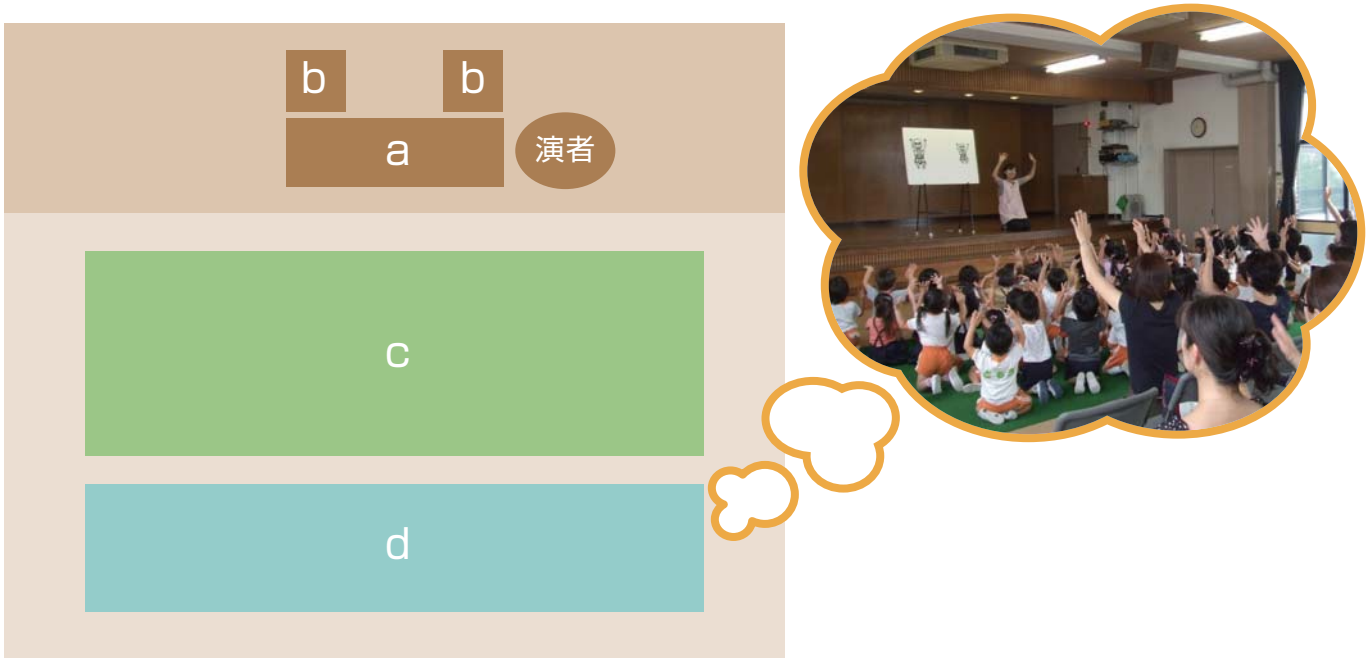
幼稚園での実践例

「ほねくん と まねっこしよう」→「ほねくん と やさいスープ」→保護者の方へのお話解説

会場の設営方法

準備するもの

- パネルシアター台（イーゼル、パネル板）→a
- 絵人形用台（例：跳び箱など）→b
- マット（子ども用）→c
- パイプ椅子（保護者用）→d



全体 約30分

段 階	活 動	○支援　●予想される子どもの反応
導 入 （10分）	導入「ほねくんとまねっこしよう」 （P17～20）参照 1.からだが「骨」でできていることを理解する。 2.ほねくんとママと一緒にまねっこをし、からだを動かす。	○登場人物の「ほねくん」が自分たちと同じ「骨」でできていることを伝える。 ●「知ってる～」と声をあげる。 ○子ども、保護者ともその場に立つよう指示する。 ○展開に向け、最後のまねっこポーズを座った形にする。

段 階	活 動	○支援　●予想される子どもの反応
展 開 （15分）	パネルシアター「ほねくん と やさいスープ」 （P4～12）参照 3.からだを動かしたため、 お腹が空いたことを知る。 4.パネルシアター、手遊びをして 楽しくやさいスープをつくる。 5.ほねくんはできあがったスープの中に 入っているにんじんを嫌いだと知る。 6.ママの支援により、 スープを全部食べられるのを観る。 7.子どもたち退場。	○お腹が空いたほねくんのために、ママと一緒にみんなでやさいスープをつくる。 ●演者とコミュニケーションをとり、楽しくスープをつくる。 ○演者は、お話をすすめながら、ほねくんとスープのお皿がどうなるかを問いかけ、子どもたちが参加する機会を設ける。 ●演者からの問いかけに答えながら、ママやほねくんが食べているスープがどうなっていくかを考える。 ○幼稚園教諭の誘導で、子どもたちを退場させる。
まとめ （10分）	解説「ほねくん と やさいスープ」 （P13～16）参照 8.行動科学の理論に基づいた パネルシアターの解説を聞く。	○保護者が抱える偏食に対する不安を軽減させるため、偏食はあってよいことを伝える。 ○チャレンジする機会を設けることも必要であることを説明し、そのためにどのような方法があるか、行動科学の理論に基づいた解説をする。

保護者の方からの感想

- 好き嫌いが激しいのですが、「嫌いなものがあっても個性だと思っています」の言葉に心強く思いました。少しずつチャレンジしていけるようにしたいと思います。
- 食の細い子で好き嫌いも多いので今まで食に関するプレッシャーを感じていましたが、話を聞いて気が楽になりました。笑顔で食べたいです。
- 栄養をとらせたいばっかりに、無理をさせて怒ってばかり。笑顔で過ごしたいと思います。
- 好き嫌いだけでなく、一般的に子どもが苦手な事、できない事に対してチャレンジする方法としても試してみようと思います。ありがとうございました。
- 達成感→自信→チャレンジの流れを頭において、私も楽しく笑顔で息子の好き嫌い克服作戦をチャレンジしてみようと思いました。